

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2023年11月8日
【四半期会計期間】	第149期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社戸上電機製作所
【英訳名】	Togami Electric Mfg. Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 戸上 信一
【本店の所在の場所】	佐賀市大財北町1番1号
【電話番号】	(0952)24-4111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役上席執行役員 管理本部長 仁部 和浩
【最寄りの連絡場所】	佐賀市大財北町1番1号
【電話番号】	(0952)24-4111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役上席執行役員 管理本部長 仁部 和浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社戸上電機製作所 東京オフィス （東京都目黒区青葉台四丁目1番13号 戸上ビル） 株式会社戸上電機製作所 中部オフィス （愛知県名古屋市熱田区花表町21番2号） 株式会社戸上電機製作所 関西オフィス （大阪府吹田市江の木町12番5号 大阪戸上ビル） 株式会社戸上電機製作所 九州オフィス （福岡県福岡市中央区天神四丁目3番30号 天神ビル新館）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第148期 第2四半期 連結累計期間	第149期 第2四半期 連結累計期間	第148期
会計期間	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高 (千円)	11,391,540	12,704,350	24,805,262
経常利益 (千円)	725,982	1,068,734	2,108,334
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	541,977	706,579	1,433,263
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	659,639	982,874	1,640,404
純資産額 (千円)	18,128,921	19,670,371	18,910,610
総資産額 (千円)	27,225,155	29,059,911	28,819,541
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	109.38	142.62	289.26
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.0	67.0	65.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	465,826	101,372	1,497,159
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	247,728	303,390	874,739
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	210,443	235,523	423,680
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	6,504,259	6,072,649	6,577,618

回次	第148期 第2四半期 連結会計期間	第149期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2022年7月1日 至2022年9月30日	自2023年7月1日 至2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	68.44	96.34

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、資源価格の高止まりや世界的な金融引き締め、円安の進行を背景とした物価上昇など、先行き不透明な状況が続いておりますが、雇用や所得環境が改善する中で経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、全社的な業務改善とムダの廃除やDX推進等を柱として安全・品質・コスト・納期の最適化や販売価格の適正化に取り組んでまいりました。

その結果、電磁開閉器や電力会社向け配電自動化用子局の需要は減少したものの、配電用自動開閉器や配電盤及びシステム機器の需要が堅調に推移したことにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は12,704百万円（前年同期比11.5%増）となりました。

損益面につきましては、売上高の増加や一部製品において材料コストの上昇に伴う価格改定を実施したことなどにより、営業利益は840百万円（同106.3%増）、経常利益は1,068百万円（同47.2%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、706百万円（同30.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

**産業用配電機器事業**  
産業用配電機器事業の売上高は10,339百万円（同12.9%増）となりました。製品区分別の詳細は以下のとおりとなります。

#### (電子制御器)

電磁開閉器につきましては、欧州環境対応機器などによる海外向け需要が好調に推移しましたが、一部海外向けにおいて計画を下回ったことにより、売上減となりました。

電力会社向け配電自動化用子局につきましては、一部製品において部品入荷が滞り生産に影響が生じたため、売上減となりました。

その結果、電子制御器全体の売上高は3,014百万円（同5.5%減）となりました。

#### (配電用自動開閉器)

主力製品である波及事故防止機器（通称SOG開閉器）につきましては、継続的に回復してきた需要に加え、一部製品の価格改定に伴い、売上増となりました。

電力会社向け配電用自動開閉器につきましては、次世代型への更新需要の拡大や配電設備の取付工事の推進などにより、売上増となりました。

その結果、配電用自動開閉器全体の売上高は5,581百万円（同15.2%増）となりました。

#### (配電盤及びシステム機器)

配電盤につきましては、調達部品の入荷遅延の影響や案件先送りなどがあったものの設備更新案件や定期メンテナンス等の需要により、売上増となりました。

システム機器につきましては、新規顧客の開拓や設備更新工事等の需要の増加、排水処理施設に関する工事案件数の増加により、売上増となりました。

その結果、配電盤及びシステム機器の売上高は1,743百万円（同55.5%増）となりました。

#### プラスチック成形加工事業

樹脂成形分野における部品等につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により停滞していた自動車業界の需要が回復傾向に転じたことから、売上高は1,495百万円（同4.1%増）となりました。

#### 金属加工事業

金属加工における部品等につきましては、産業用機械の需要が好調に推移したことから、売上高は834百万円（同9.7%増）となりました。

#### その他

プラスチック成形加工事業に付随する金型加工やソフトウェア開発等につきましては、需要が減少したことから、売上高は34百万円（同11.1%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は19,786百万円となり、前連結会計年度末に比べ102百万円増加いたしました。これは主に原材料及び貯蔵品が385百万円増加したことによるものであります。固定資産は9,273百万円となり、前連結会計年度末に比べ138百万円増加いたしました。これは主に投資その他の資産に含まれる投資有価証券が312百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は29,059百万円となり、前連結会計年度末に比べ240百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は6,438百万円となり、前連結会計年度末に比べ532百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が528百万円減少したことによるものであります。固定負債は2,951百万円となり、前連結会計年度末に比べ12百万円増加いたしました。これは主に退職給付に係る負債が13百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は9,389百万円となり、前連結会計年度末に比べ519百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は19,670百万円となり、前連結会計年度末に比べ759百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が483百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末より504百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末残高は6,072百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は101百万円(前年同期は465百万円の収入)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益の計上1,068百万円や仕入債務の減少558百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は303百万円(前年同期は247百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出207百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は235百万円(前年同期は210百万円の支出)となりました。これは主に配当金の支払222百万円によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、91百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因について重要な変更はありません。

(8) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,800,000
計	18,800,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,028,658	5,028,658	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	5,028,658	5,028,658	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	5,028,658	-	2,899,597	-	483,722

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社戸上ビル	東京都目黒区青葉台四丁目1番10号	478	9.65
戸上電機取引先持株会	佐賀市大財北町1番1号	281	5.67
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	220	4.44
株式会社佐賀銀行	佐賀市唐人二丁目7番20号	220	4.44
戸上 信一	東京都目黒区	218	4.40
戸上電機製作所従業員持株会	佐賀市大財北町1番1号	194	3.92
戸上 鴻太郎	東京都目黒区	133	2.70
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	120	2.42
戸上 千裕	東京都目黒区	113	2.28
戸上 孝弘	佐賀市	100	2.02
計	-	2,079	41.97

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 74,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,922,100	49,221	-
単元未満株式	普通株式 32,258	-	1単元(100株)未満の 株式
発行済株式総数	5,028,658	-	-
総株主の議決権	-	49,221	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の2個が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社戸上電機製作所	佐賀市大財北町 1番1号	74,300	-	74,300	1.5
計	-	74,300	-	74,300	1.5

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,811,505	6,324,536
受取手形、売掛金及び契約資産	5,211,962	5,392,138
電子記録債権	1,011,094	1,136,896
商品及び製品	1,373,144	1,447,663
仕掛品	1,629,130	1,498,539
原材料及び貯蔵品	2,305,307	2,690,768
その他	1,342,512	1,296,198
流動資産合計	19,684,658	19,786,741
固定資産		
有形固定資産	5,039,135	4,892,231
無形固定資産	382,667	413,411
投資その他の資産		
その他	3,716,180	3,970,628
貸倒引当金	3,100	3,100
投資その他の資産合計	3,713,080	3,967,528
固定資産合計	9,134,883	9,273,170
資産合計	28,819,541	29,059,911
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,741,414	2,212,834
電子記録債務	1,692,183	1,681,117
短期借入金	336,315	328,000
未払法人税等	355,828	370,328
賞与引当金	745,632	743,119
完成工事補償引当金	-	8,842
その他	1,098,763	1,093,775
流動負債合計	6,970,138	6,438,017
固定負債		
退職給付に係る負債	2,811,810	2,825,332
その他	126,982	126,190
固定負債合計	2,938,793	2,951,523
負債合計	9,908,931	9,389,540
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,899,597	2,899,597
資本剰余金	580,212	580,212
利益剰余金	14,895,808	15,379,436
自己株式	72,323	72,642
株主資本合計	18,303,294	18,786,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	156,602	372,066
為替換算調整勘定	259,670	313,988
退職給付に係る調整累計額	8,921	230
その他の包括利益累計額合計	425,195	685,824
非支配株主持分	182,120	197,942
純資産合計	18,910,610	19,670,371
負債純資産合計	28,819,541	29,059,911

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
売上高	11,391,540	12,704,350
売上原価	9,243,883	10,141,242
売上総利益	2,147,656	2,563,107
販売費及び一般管理費	1,740,393	1,722,780
営業利益	407,263	840,326
営業外収益		
受取利息	693	1,322
受取配当金	28,120	24,995
為替差益	196,024	157,767
鉄屑売却収入	46,955	4,794
保険返戻金	2,746	-
その他	61,083	45,551
営業外収益合計	335,624	234,431
営業外費用		
支払利息	1,379	1,258
投資有価証券売却損	-	1,830
金銭の信託運用損	7,425	-
固定資産除却損	187	1,530
訴訟和解金	5,000	-
その他	2,913	1,404
営業外費用合計	16,905	6,024
経常利益	725,982	1,068,734
特別利益		
固定資産売却益	172	171
特別利益合計	172	171
税金等調整前四半期純利益	726,154	1,068,905
法人税、住民税及び事業税	201,839	348,624
法人税等調整額	23,795	1,500
法人税等合計	178,044	350,125
四半期純利益	548,110	718,780
非支配株主に帰属する四半期純利益	6,132	12,201
親会社株主に帰属する四半期純利益	541,977	706,579

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	548,110	718,780
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,605	218,927
為替換算調整勘定	133,155	54,317
退職給付に係る調整額	11,979	9,151
その他の包括利益合計	111,528	264,093
四半期包括利益	659,639	982,874
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	653,413	967,209
非支配株主に係る四半期包括利益	6,225	15,665

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	726,154	1,068,905
減価償却費	339,413	350,911
投資有価証券売却損益(は益)	-	1,830
固定資産除却損	187	1,530
賞与引当金の増減額(は減少)	34,655	3,319
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	17,284	361
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	-	8,842
受取利息及び受取配当金	28,814	26,318
支払利息	1,379	1,258
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	368,519	281,289
棚卸資産の増減額(は増加)	766,175	306,125
仕入債務の増減額(は減少)	37,303	558,276
未収入金の増減額(は増加)	213,766	12,439
未払金の増減額(は減少)	175	140,259
未払費用の増減額(は減少)	51,349	28,263
未払消費税等の増減額(は減少)	103,267	76,249
預り保証金の増減額(は減少)	2,026	503
その他	101,005	55,399
小計	685,849	179,101
利息及び配当金の受取額	28,845	25,726
利息の支払額	1,144	980
法人税等の支払額	247,724	305,220
営業活動によるキャッシュ・フロー	465,826	101,372
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	18,000	21,000
定期預金の払戻による収入	-	3,000
有形固定資産の取得による支出	194,295	207,308
有形固定資産の売却による収入	172	171
無形固定資産の取得による支出	10,368	46,569
投資有価証券の取得による支出	1,967	8,122
投資有価証券の売却による収入	-	8,293
保険積立金の積立による支出	115,369	107,461
保険積立金の解約による収入	93,932	75,749
その他	1,831	143
投資活動によるキャッシュ・フロー	247,728	303,390
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	125	318
短期借入金の純増減額(は減少)	3,200	-
長期借入金の返済による支出	10,002	8,315
配当金の支払額	198,203	222,951
その他	5,312	3,938
財務活動によるキャッシュ・フロー	210,443	235,523
現金及び現金同等物に係る換算差額	171,890	135,317
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	179,544	504,969
現金及び現金同等物の期首残高	6,324,714	6,577,618
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,504,259	6,072,649

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
給料	436,763千円	436,608千円
賞与引当金繰入額	170,629	167,447
退職給付費用	49,203	44,032

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	6,756,145千円	6,324,536千円
預入期間が3か月を超える定期預金	251,886	251,886
現金及び現金同等物	6,504,259	6,072,649

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	198,203	40.0	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月4日 取締役会	普通株式	198,200	40.0	2022年9月30日	2022年12月2日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	222,951	45.0	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月1日 取締役会	普通株式	198,173	40.0	2023年9月30日	2023年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期 連結損益計算書 計上額 (注3)
	産業用配電 機器事業	プラスチック 成形加工事業	金属加工事業			
売上高						
外部顧客への売上高	9,155,490	1,436,864	760,307	38,878	-	11,391,540
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,386	216,001	728,439	80,639	1,028,466	-
計	9,158,876	1,652,865	1,488,746	119,517	1,028,466	11,391,540
セグメント利益	818,842	11,766	60,024	4,314	487,686	407,263

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラスチック成形加工事業に付随する金型加工やソフトウェア開発等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 487,686千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期 連結損益計算書 計上額 (注3)
	産業用配電 機器事業	プラスチック 成形加工事業	金属加工事業			
売上高						
外部顧客への売上高	10,339,762	1,495,944	834,097	34,545	-	12,704,350
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,171	174,883	629,729	125,746	932,531	-
計	10,341,933	1,670,827	1,463,826	160,291	932,531	12,704,350
セグメント利益	1,217,492	11,038	71,395	5,246	464,846	840,326

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラスチック成形加工事業に付随する金型加工やソフトウェア開発等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 464,846千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	産業用配電 機器事業	プラスチック 成形加工事業	金属加工事業		
電子制御器	3,188,717	-	-	-	3,188,717
配電用自動開閉器	4,845,470	-	-	-	4,845,470
配電盤及びシステム機器	1,121,303	-	-	-	1,121,303
その他	-	1,436,864	760,307	38,878	2,236,049
顧客との契約から生じる収益	9,155,490	1,436,864	760,307	38,878	11,391,540
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	9,155,490	1,436,864	760,307	38,878	11,391,540

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラスチック成形加工事業に付随する金型加工やソフトウェア開発等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	産業用配電 機器事業	プラスチック 成形加工事業	金属加工事業		
電子制御器	3,014,654	-	-	-	3,014,654
配電用自動開閉器	5,581,589	-	-	-	5,581,589
配電盤及びシステム機器	1,743,518	-	-	-	1,743,518
その他	-	1,495,944	834,097	34,545	2,364,587
顧客との契約から生じる収益	10,339,762	1,495,944	834,097	34,545	12,704,350
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	10,339,762	1,495,944	834,097	34,545	12,704,350

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラスチック成形加工事業に付随する金型加工やソフトウェア開発等を含んでおります。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	109円38銭	142円62銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	541,977	706,579
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	541,977	706,579
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,955	4,954

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2023年11月1日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....198,173千円

(ロ) 1株当たりの金額.....40円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2023年12月4日

(注) 2023年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月8日

株式会社戸上電機製作所  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
福岡事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮本 義三

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内野 健志

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社戸上電機製作所の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社戸上電機製作所及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。